

自然遊学館 だより

2003 SPRING (No.27)

2003.4.1

七草つみ

日時：2003年1月6日

場所：名越の畑

「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのぞ、すずな、すずしろ、これぞ七草」と歌われている「七草つみ」は、初春の恒例の行事です。ゴギョウは今のハハコグサ、ハコベラはハコベ、ほとけのぞはコオニタビラコ、スズナはカブ、スズシロはダイコンです。スズナ、スズシロは野菜ですが、他の5種は田んぼや畑、道端などで見かける雑草です。

上久保文貴先生の説明のあと、この5種を探しました。土地の乾燥化からかここでは年々セリは少なくなっています。また、並べてみると違いは明らかなようでも、単独ではまちがって摘んでしまいそうな草など、集めるのは大変そうですが、1時間でなんとか5種を採集できました。遊学館で用意したカブ、ダイコンと合わせて7種、次の日の七草粥を楽しみに解散しました。今年も無病息災♪

七草とまちがいやすい草

キツネノボタン、タガラシ、ウマノアシガタ、キュリグサ、タネツケバナ、チチコグサモドキ、オランダミミナグサ、オニタビラコ



(湯浅 幸子)

特別展「鉱物・岩石・化石展」

日時：2003年1月10日～3月3日

場所：関空交流館

関空交流館2階の展示スペースにおいて、きしわだ自然資料館専門委員で化石が専門の高田雅彦氏、および産経新聞記者で鉱物の研究をしておられる藤浦淳氏の協力を得て、近畿地方の鉱物・岩石・化石を紹介する特別展を行いました。



地質年代の説明をする高田雅彦先生



講演会の様子。中央の長身の男性が藤浦先生。

化石は和泉層群から発掘され当館が所蔵しているゴードリセラス(アンモナイトのなかま)、グロブラリア(巻き貝のなかま)、ナノナビス(二枚貝のなかま)などを中心に展示しました。



ゴードリセラスの化石

鉱物は藤浦氏が集められたアパタイト、トパーズ、水晶など多数を展示しました。その中には、和泉層群が世界的な山地として有名なドーソン石が含まれます。また、岩石は岸和田市立科学教育センターが所蔵しているものをお借りしました。

1月12日には両氏を講師として、展示物を紹介する普及講演会を行い、約20名の参

加がありました。上の写真は、その時の様子を写したものです。

また、現在は4月14日まで、関空交流館の1階の展示スペースにおいて「写真で見る近木川と子どもたち」という特別展を行っています。近木っ子探検隊や市内の各小学校での環境教育において近木川で「学ぶ」子どもたちや四季折々の近木川の様子を写真で紹介し、市内の川・ため池・井堰を示した地図、姉妹都市のカリフォルニア州カルバシティー(Culver City)での環境問題への取り組み、カルバシティーから来貝した中学生20名に答えてもらった水や環境に関するアンケートの結果なども展示しています。

次の関空交流館での特別展は7月5日から「貝の世界」を行う予定です。

(岩崎 拓)

新春・タヌキの解剖

日時：2003年1月18日

場所：自然遊学館多目的室

自然遊学館で初めての行事「タヌキの解剖」を行いました。昨年12月8日、奈良の十三峠で交通事故死していたオスの成獣です。体長や体重を計測し、参加記念に足のスタンプをとったあと、皮をむき、内臓の様子を観察しました。メスを使って心臓のつくりを調べたり、気管にストローを差し入れて肺をふくらませてみたり、いろいろな部分に興味を持つ子がありました。最後に胃の内容物を洗い出し、食べていたものを調べたところ、サワガニ・シデムシの幼虫(たくさん!)・エノキの実(ものすごくたくさん!)などが

みつかりました。また、体に付いていたダニはヤマトチマダニ（吸血性）でした。



タヌキを解剖しているところ

突発企画でしたが多目的室は約 40 名の参加者で大にぎわい。「くさい！」という声もありましたが、比較的新鮮な死体で状態も良く、はじめての解剖にはびったりだったので？と思います。助手をしてくれた皆さん、ありがとうございました。

これからも動物の死体が入り次第、解剖講座を開催していく予定です。もし何か生きものを拾ったら、遊学館までお知らせ下さい。モグラ、ネズミ、コウモリ、イタチなど、なんでも大歓迎です！

(西澤 真樹子)

化石採集会

日時：2003 年 1 月 25 日

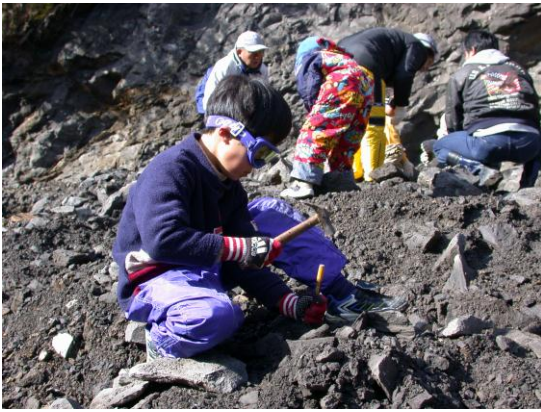
場所：貝塚市蕎原箱谷

化石研究家の高田雅彦氏を講師に迎え化石採集会を行いました。参加者は大人子ども合わせて 36 名という大盛況。遊学館の人気行事の 1 つです。まず 10 時に蕎原バス停に集合し、採集地に行きました。この採集地は

箱谷にある平山福松さんの私有地で、ご好意で採集させて頂いています。

まず、講師の高田雅彦さんが和泉層群六尾累層畦谷泥岩層や貝塚市で採集される化石についてお話をいただきました。また、採集した化石の保管などについても教えていただきました。それでは採集開始！ということで、大人子どもが入り混じって化石の入りっいそうな石を割り始めました。最初はどれが化石か分からなかったのですが、高田先生に尋ねてどんどん採集していきました。お弁当を食べた後はクリーニングと言う作業をしました。これは化石についている余分な堆積岩を除いていくという作業で、博物館に展示してあるような化石はこのような作業を経てきれいになるのです。クリーニングは非常に細かい作業で、化石を壊さないように周囲の石を落としていかなければなりません。五寸釘と小さなカナヅチで化石を壊さないように、そして細かい泥などはワイヤーブラシで軽くけずり落とすなど、みんな真剣に化石をクリーニングしていました。こんなものじゃ物足りない！もっと探すという子供たちもいたぐらいです。みんな採取した化石を大事に持ち帰って、最後の最後まで大盛況の行事でした。

今回採集された化石は以下のとおり。
ゴードリセラス属（アンモナイト）の破片、
ナノナビス属（二枚貝）の 3 種、小型の巻貝の 1 種（ボルチリデス属）、中型の巻貝（シュードペリシテス属）、サンドパイプ（古生物の巣穴の化石）、甲殻類の 1 種（何の仲間かは不明）



ハンマーとたがねで岩石を砕く

(澤田 義弘)

子どもと海・なぎさ海道フォーラム

日時：2003年2月22日場所

場所：関空交流館

海辺で子どもや自然観察などをテーマに取り組みを進めている市民団体の交流と団体を進めることなどを目的として、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構と当館の主催で行われました。

第1部 近木川河口観察会

昨年と同じく、日本貝類学会の児嶋格氏と大阪市立自然史博物館の和田岳学芸員を講師にむかえて、貝と鳥の観察会を行いました。まず、潮騒橋の上から河口干潟と上流のアシ原に生息する鳥類の説明を受けました。和田さんは、実際の話、「これだけ少ない種数で行事をするのはきつい」、ということでした。けれども2時間30分ほどの観察で過去の観察会を超す30種の鳥類が確認されました。その種類は、カンムリカイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒ

ドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ダイゼン、ハマシギ、セグロカモメ、カモメ、ウミネコ、ユリカモメ、キジバト、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバトと水鳥が中心でした。

曇り空で雨のばらつく寒い天気にもかかわらず、参加者の皆さんは、和田さんに「何の鳥ですか？」と熱心に質問をしていました。

次に河口右岸側からハシゴで海岸に降り立ち、打ち上げ貝の採集を行いました。今年の冬は底冷えのする日が多く、強い北風の影響で、近木川沖の海の底に生息する貝が多く打ち上がり、児嶋先生により新たに6種が確認されました。その結果、近木川河口の生貝の記録は計65種にのぼっています。今回の観察会で確認された種を以下に記します。

コシダカガンガラ、イシダタミガイ、シマメノウフネガイ、アカニシ、サルボウガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、ホトトギスガイ、ハボウキガイ、ナミマガシワガイ、マガキ、バカガイ、クチバガイ、サクラガイ、ゴイサギガイ、ヒメシラトリガイ、ウスカラシオツガイ、カガミガイ、アサリ、オオノガイ、ナミガイ

第2部 近木川河口の自然再生をめざす地域交流

淡水魚研究家の君塚芳輝氏による多摩川のワンド再生の事例発表がありました。君塚先生の話では、近木川の汽水ワンドは、計画では全国で一番早かったのに、どんどん他の川に追い越されて、今では5番目くらいになってしまった、ということでした。また、関

東と関西では取り組み方に差があるという話もされていました。引き続いて、第1部の講師の先生方などから、近木川河口にすむ生きものの話があり、市内小学校の環境学習への取り組みや、「近木っ子探検隊」の子どもたちから、近木川河口で行っている行事の感想や観察の報告がありました。

第3部 子どもと海の豊かな係わりをめざす広域交流

男里川の干潟を守る会、自然と本の会、江井ヶ島の海と子どもを守る会などの地域の環境問題に取り組んでいる団体や行政に携わる方による発表が行われました。君塚先生が、「第1部、第2部と本当に楽しかったのに、第3部に入って、特に「官」が出てきてからは急に話が〇〇〇なくなった」という発言があり、なんとストレートな発言をされる先生だろうと本当に感心しました。また、児嶋先生からの、「みなさんは近木川が汚いことばかり言いますが、近木川が運んでくる栄養分によって、干潟にはたくさんの貝が生息できるのです」という発言が印象的でした。



フォーラム会場の様子

(石毛 久美子、岩崎 拓、山田 浩二)

自然史フェスティバルに出展しました！

期間：2003年3月21日～23日

場所：大阪市立自然史博物館

貝塚市立自然遊学館は、大阪市長居の大阪市立自然史博物館で行われた自然史フェスティバルに出展しました。当館のコンセプトである貝塚市の自然にこだわっていることや、自然大好き人間の輪を広げる事などを説明し、当館主催の行事や、近木川河口に汽水ワンドをつくる会の紹介、わくわくクラブなどのボランティアグループの活動も紹介しました。自然史フェスティバルは3日間で2万人が来館したとの事で、多くの人に知っていただけたと思っています。

(澤田 義弘)

イタチの解剖

日時：2003年3月30日

場所：自然遊学館多目的室

1月に開催して好評だったタヌキに引き続き、今回はイタチを2匹用意して解剖を行いました。いずれも交通事故死体で、それぞれ2月26日と、3月29日の夜に生駒山を越える阪奈道路上で拾ったものです。体にはダニとノミが付いていましたが、ノミは紛失。ダニの種類はヤマトチマダニでした。体の計測後、いつもどおり皮むき。その後「本日の記念品」として石膏を使った足型模型をつくりました。

参加者は大人・子ども合わせて約30名。イタチには独特の強いニオイがあり、子供たちの反応が心配でしたが、こちらがびっくりするほど熱心に作業に取り組んでくれました。

今回の解剖講座は鳥(ドバト)の予定です。

開催日は遊学館内にポスターで掲示します。



イタチを解剖しているところ
(西澤 真樹子)

自然遊学館の仕事（魚類飼育 編）

館内には海水や淡水の水槽があり、魚たちを飼育していますが、今回はその飼育にまつわるお話をしたいと思います。

毎朝、出勤してくるとまず、水槽の蛍光灯をつけて回り「おはよう」の挨拶をしながら、異常がないか観察します。魚たちが明るさに慣れ、落ち着いたら餌を与えていきます。こういった毎日行う基本的な作業のほかに、徐々に水槽のガラス（アクリル）面に藻が付き始めたり、フンや餌の食べ残しなどで水が汚れてきたりすると、ろ過フィルターの掃除や水替えをしなければなりません。

水替えについて、淡水の場合は水道水をカルキ抜きで中和してから使いますが、海水は海から運んできています。館の海向かいにある海浜緑地公園の協力で、ジェットスキー専用のスロープを使用してもらい、ポンプでポリタンクに汲み上げています（写真）。しかし、夏場はこの海域で赤潮がしばしば発生するため、岬町にある大阪府栽培漁業センターまで海水をもらいに行きます。



海浜緑地で海水を汲む

このように、涼しげな水槽展示の裏側にはいろいろな苦勞がありますが、生きもの好きな近所の小・中学生の積極的なお手伝いもあり、支えられています。

(山田 浩二)

常設展示の入れ替えについて

当館は平成5年10月にオープンし、今年で10周年を迎えることとなります。今年の10月には記念行事を行い、貝塚市内で確認された動植物のリストを作成する予定にしています。また、館内の常設展示に関しては、開館当時のままのものもあり、この10年間で蓄積された標本やデータを紹介するための大幅な入れ替えを計画しています。

これまでの展示は、貝塚の自然の紹介以外にも、海外の昆虫標本や貝塚市に生息しない生体の展示など、雑多になりがちな面もあり、常設展示の基本を「貝塚市内の動植物の紹介に専念する」ということにしました。こちらの作業は今年に入ってから徐々に進めており、作業中に来館された方にはご迷惑をおかけしていると思いますが、どうぞご了承ください。



貝塚市にすむ鳥のコーナー。市民の方から持ち込まれた死体を剥製にしたものです。

現在の「世界の昆虫」を標本展示しているスペースは、貝塚市内で採集された昆虫の標本展示に入れ替えることを計画しています。しかしながら、当館の昆虫標本はチョウ目（チョウとガ）に大きく偏ったものになっていて、たとえば、ハチ目やハエ目などの標本は極端に少ない状態です。10周年の記念行事を迎えた段階でも、貝塚市内の昆虫相をまんべんなく紹介できない未完成なものになるかもしれませんが、一步一步完成に近づけていきたいと考えていますので、みなさまも「見慣れない虫」を貝塚市内で採集された時には、ご持参いただけたら幸いです。

(岩崎 拓)

【泉州生きもの歳時記】



アカエラミノウミウシ
Sakuraeolis enosimensis

(後鰓亜綱 裸鰓目 トモエミノウミウシ科)

採集場所：二色浜公園（海浜緑地）

採集日：2003年3月25日

採集者：寺田拓真（貝塚市立第5中学2年）

貝がらを退化消滅させた巻貝の仲間。二本の突き出た触角が角^{つの}のようなので、海牛の名があります。体長は約3cm程ですが、背面に^{みの}箕をしょったように多数のしなやかな突起があります。ミノウミウシの仲間は刺胞動物を食べるとのことですが、この場所で具体的に何を食べているか興味深いところです。

(K.Y)

自然遊学館だより 2003 春号(No.27)

発行日 2003.4.1

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 0724(31)8457

Fax. 0724(31)8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.osaka.jp
